触手のパンツだぁ
きひひひっ
生理は先週
終わったばっかり・・・
夜中・・知らない間に処女を失い・・
腸内で孵化した寄生虫を膣内に迎え入れた彼女・・・
彼女の身体は寄生虫によって更に改造されていく・・・

そして夜・・・彼女の部屋・・・・・

・・・んっ
あれ・・暗い・・
ずっと寝てたんだ・・・

朝起きた後、寄生虫によって意識を失ってた彼女・・・
・・・んっ
学校に行った記憶はなく、朝から夜になった今まで
ずっと寝ていたと思い込んでいた・・・・
あれ・・暗い・・
ずっと寝てたんだ・・・

起きてすぐ・・彼女は違和感を感じる・・・・
なんか体が重い・・・
まだ体調・・
戻ってないっぽいなぁ・・

そう言いながら確認するために彼女は自分の体に目をやると、
なぜかパンツを履かず、はだけたパジャマから異様に膨らんだお腹が目に入った・・・

その直後、更にお腹が勢いよく膨らみボタンが外れ胸が露わになる・・・
彼女のその姿は臨月の妊婦のようだった・・・・・

これ・・・
病気・・・・
救急車・・ママ・・・
呼ばないと・・・
トクン…
トクン…

助けを求めようと起き上がろうとした瞬間、彼女の身体に異変が生じる・・・・・
?!
んぐ・・っ！
何・・っ!?
ボワ?..
トクン...
トクン...

前触れもなく子宮が飛び出し・・・喉を伝って何かが遡ってくる・・・・・
そして・・・・・・
!
うぅっっ!!
トクン…
トクン…
ブリュッ

!?
えげぇぇっ!!
ズッ!
トクン…
トクン…
ズズッ

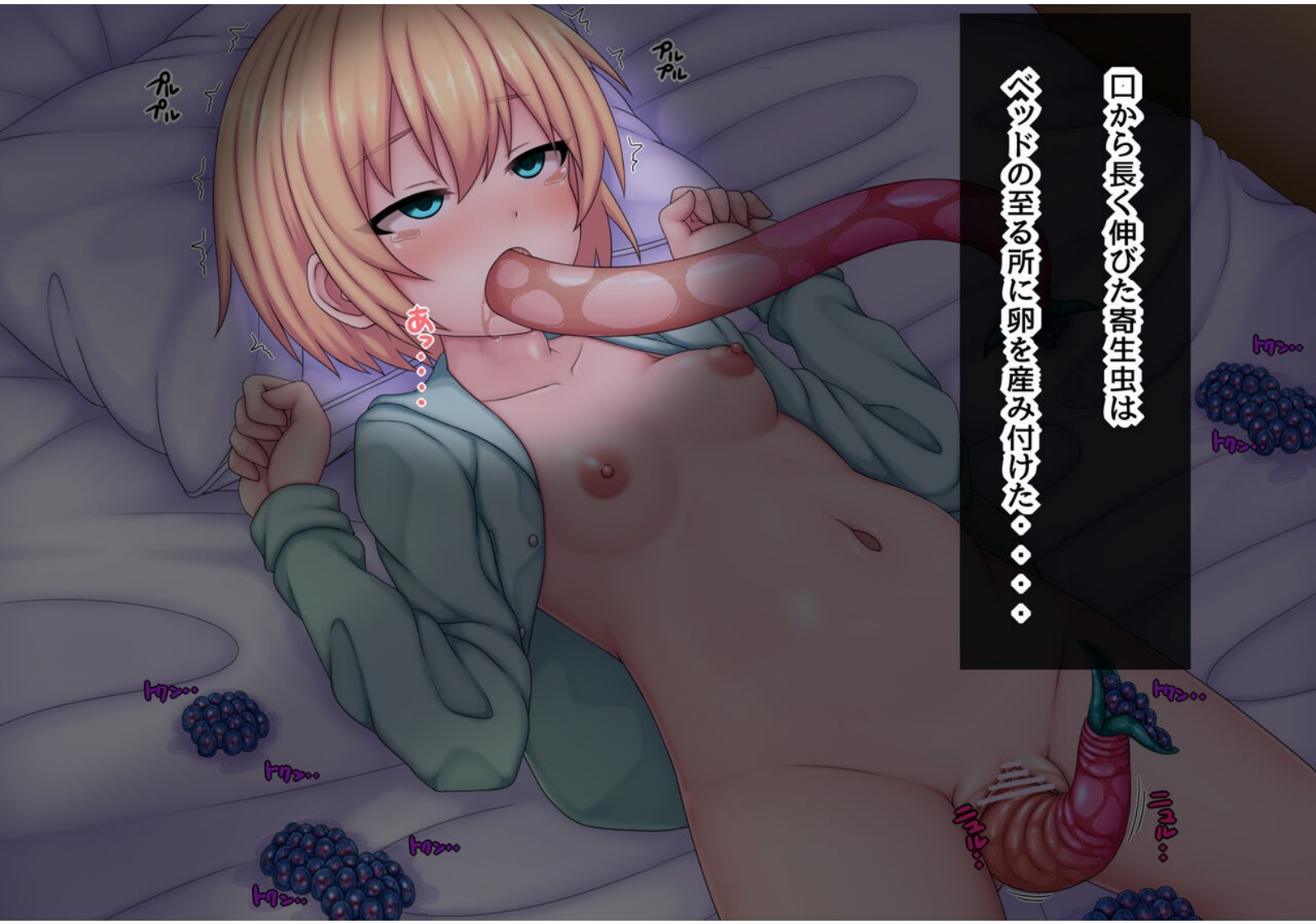
?
?
プルプル
プルプル
ズリュリュ…
あえ…
あぁ…あっ…?
トクン…
トクン…
ズニュニュ…

!
あーーっ！
あぁぁぁーーっっ!!
ニュルル…
ズズ…
トクン…
トクン…
ズーーンッ…

口から現れたのは巨大な寄生虫・・・・
そして股から這い出た寄生虫は、彼女の子宮と融合していた・・・・・・
!?
んーーーっ!!
んんんーーっっ!!
ぽぁ～
トクン・・・
トクン・・・
ぽぁ～
ニュル・・
ニュル・・

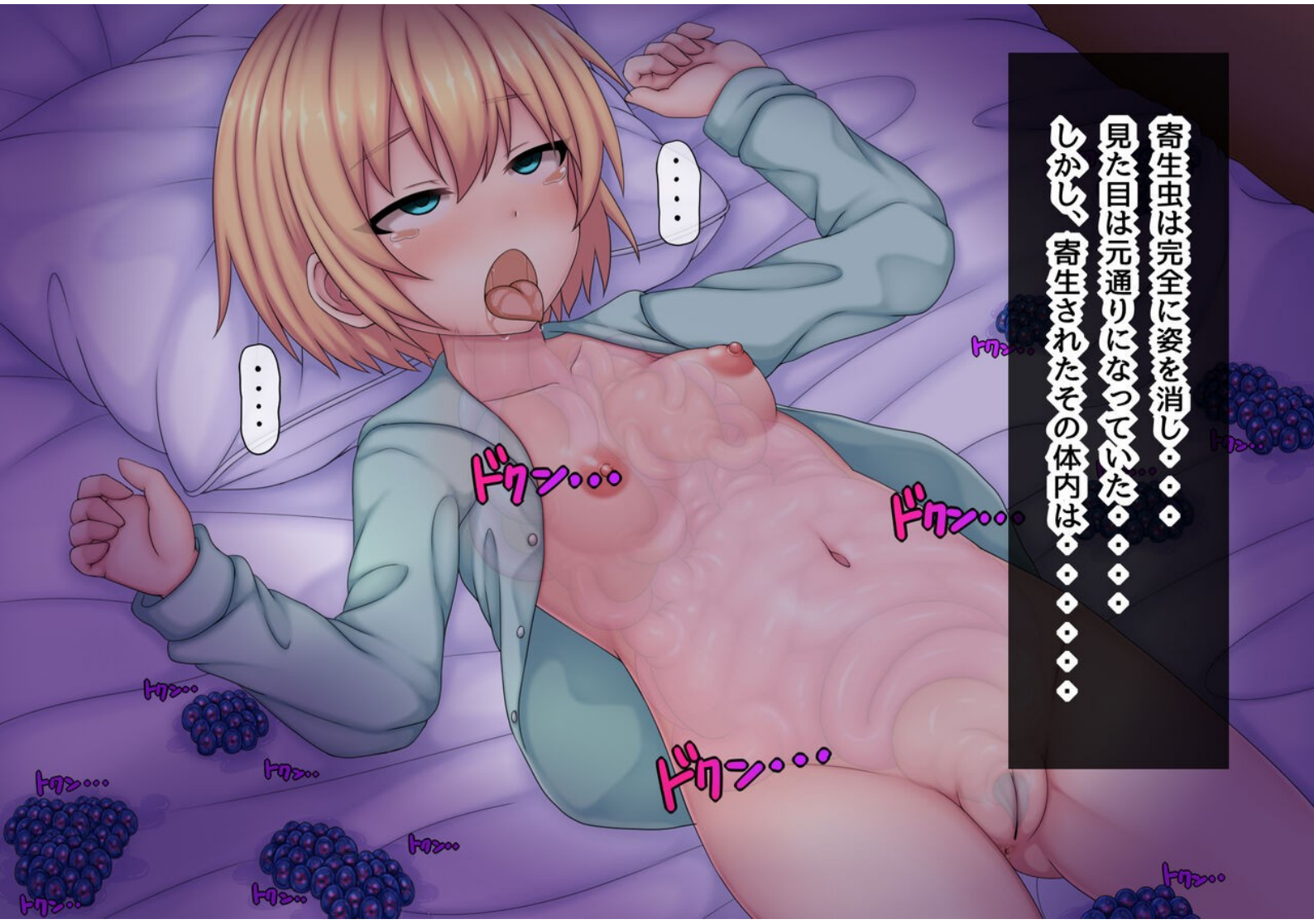
子宮と融合した寄生虫から溢れる卵・・口から伸びた寄生虫もベッドに卵を産み付ける・・・・・・
そして色の変化から、口の寄生虫も体内で彼女と一体化しているのが分かった・・・
んんっ!?
んーーーっ!!
ズリュリュ…
プリュ
プリュ
トクン…
トクン…
プリュリュッ
ニュル…
ニュル…

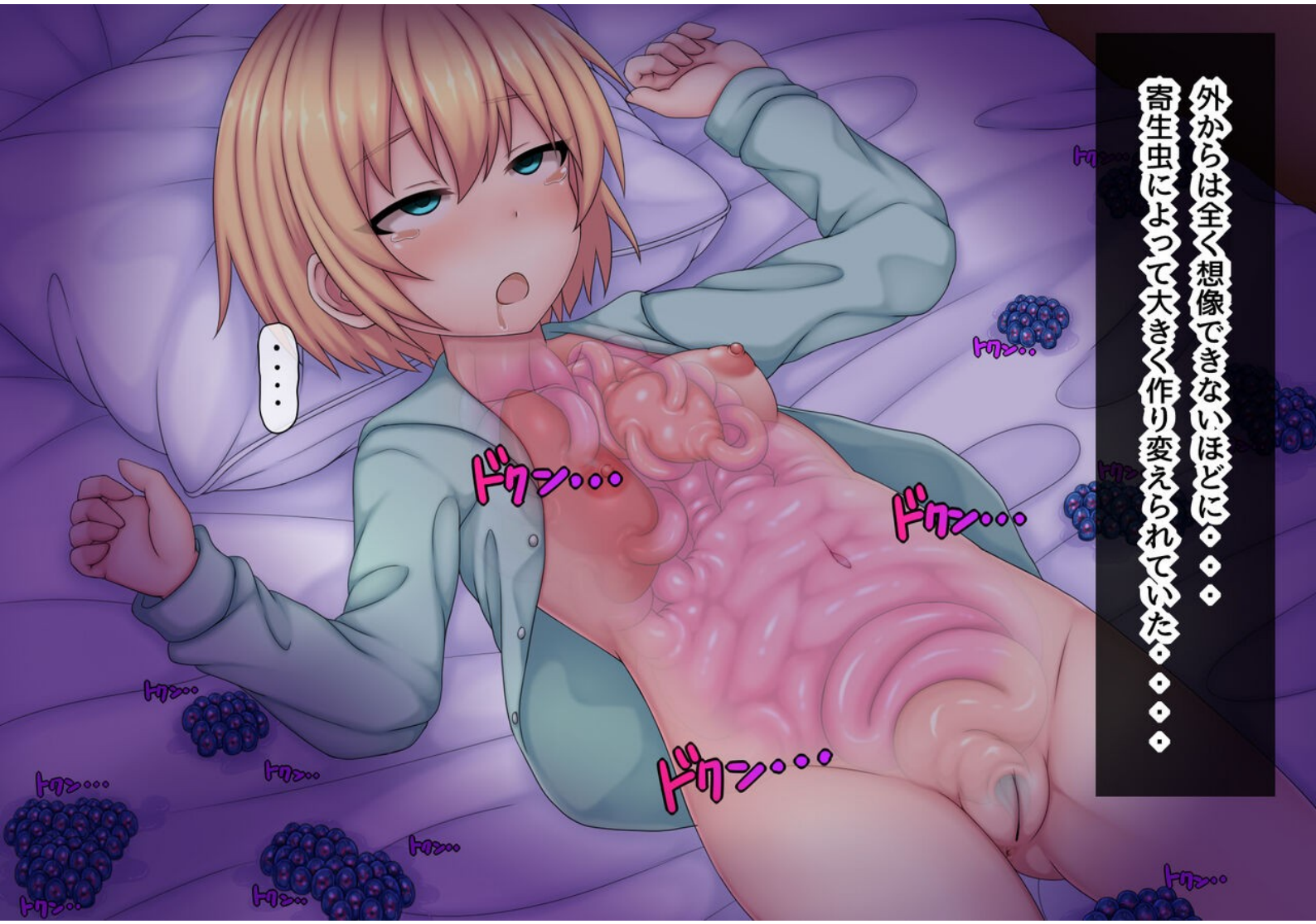
あまりの光景に彼女の意識は遠のき、卒倒してしまう・・・・・・


口から長く伸びた寄生虫は
ベッドの至る所に卵を産み付けた・・・・
プルプル
プルプル
あっ・・・
トクン..
トクン..
トクン..
トクン..
トクン..
トクン..
ニュル..
ニュル..

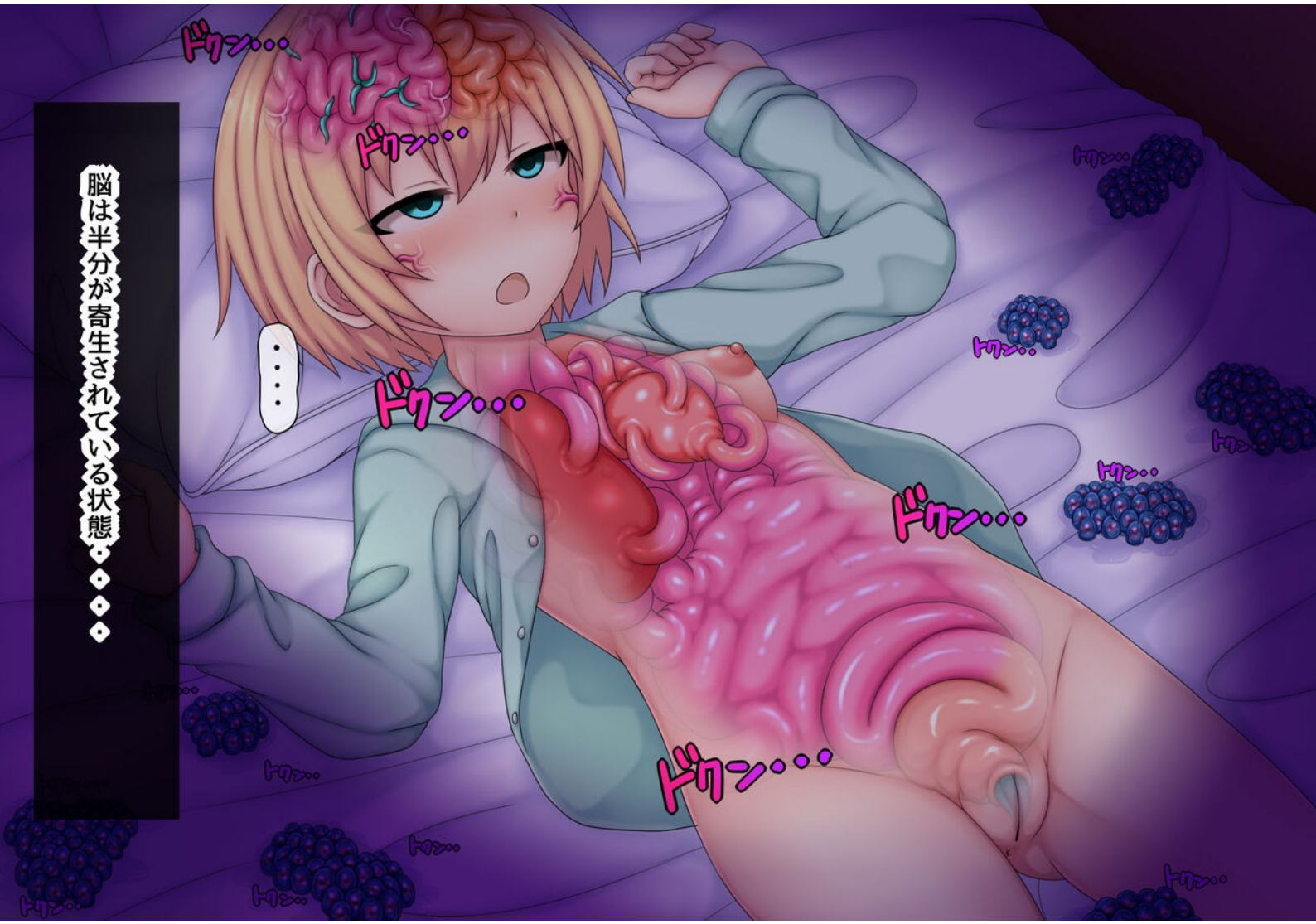
すべてを産み終え、彼女のお腹は元に戻り、寄生虫もゆっくり彼女の体内へと戻っていく・・・
・・・・
・・・・
ニュルッ・・
ズズ・・・
ズズ・・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・・
トクン・・

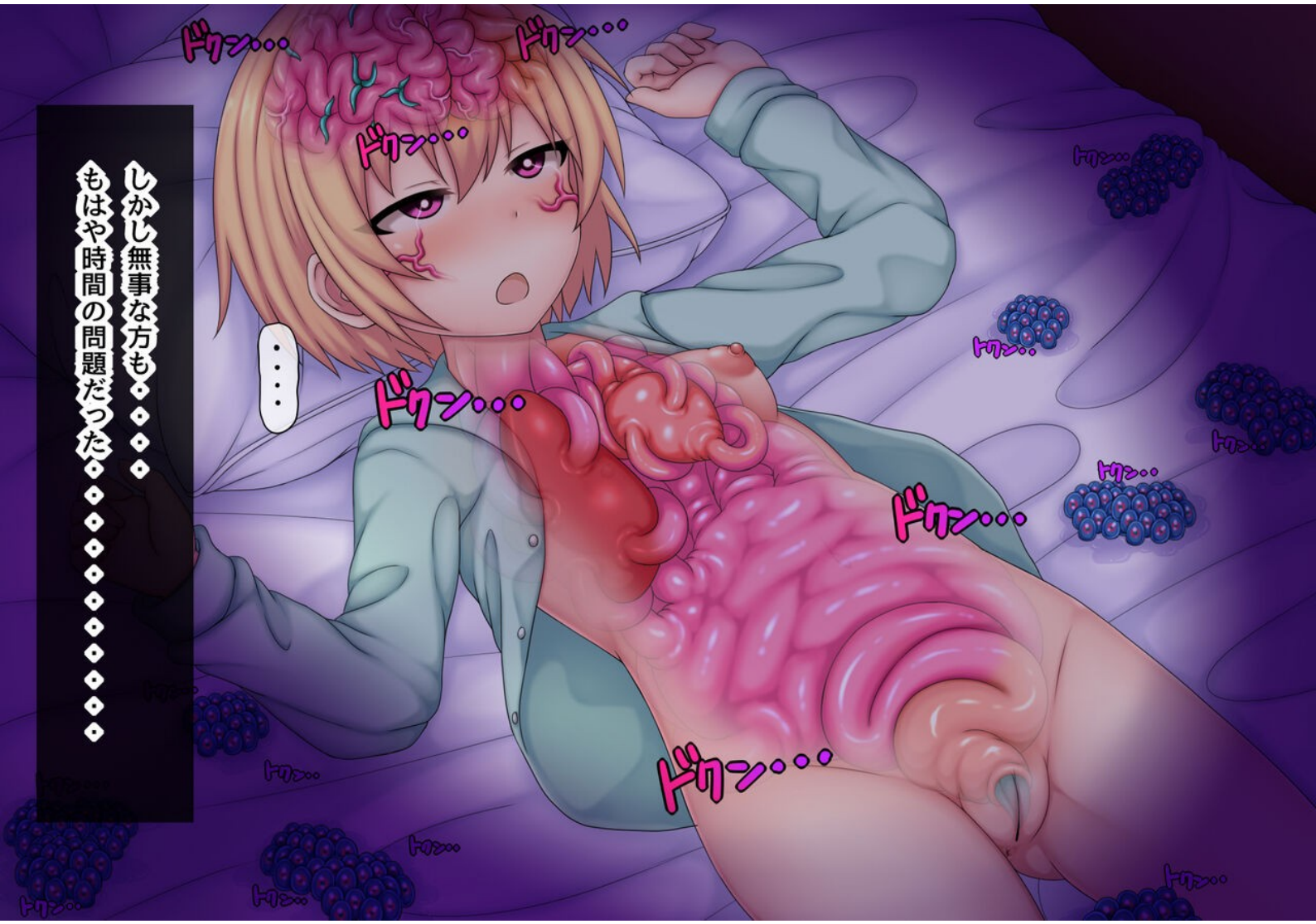
・・・・
ズリュ・・
・・・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・・
トクン・・
ズズ・・・
トクン・・


寄生虫は完全に姿を消し・・・
見た目は元通りになっていた・・・・
しかし、寄生されたその体内は・・・・・・
・・・・
・・・・
ドクン・・・
ドクン・・・
ドクン・・・
トクン・・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・


外からは全く想像できないほどに・・・
寄生虫によって大きく作り変えられていた・・・・
・・・・
ドクン・・・
ドクン・・・
ドクン・・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・

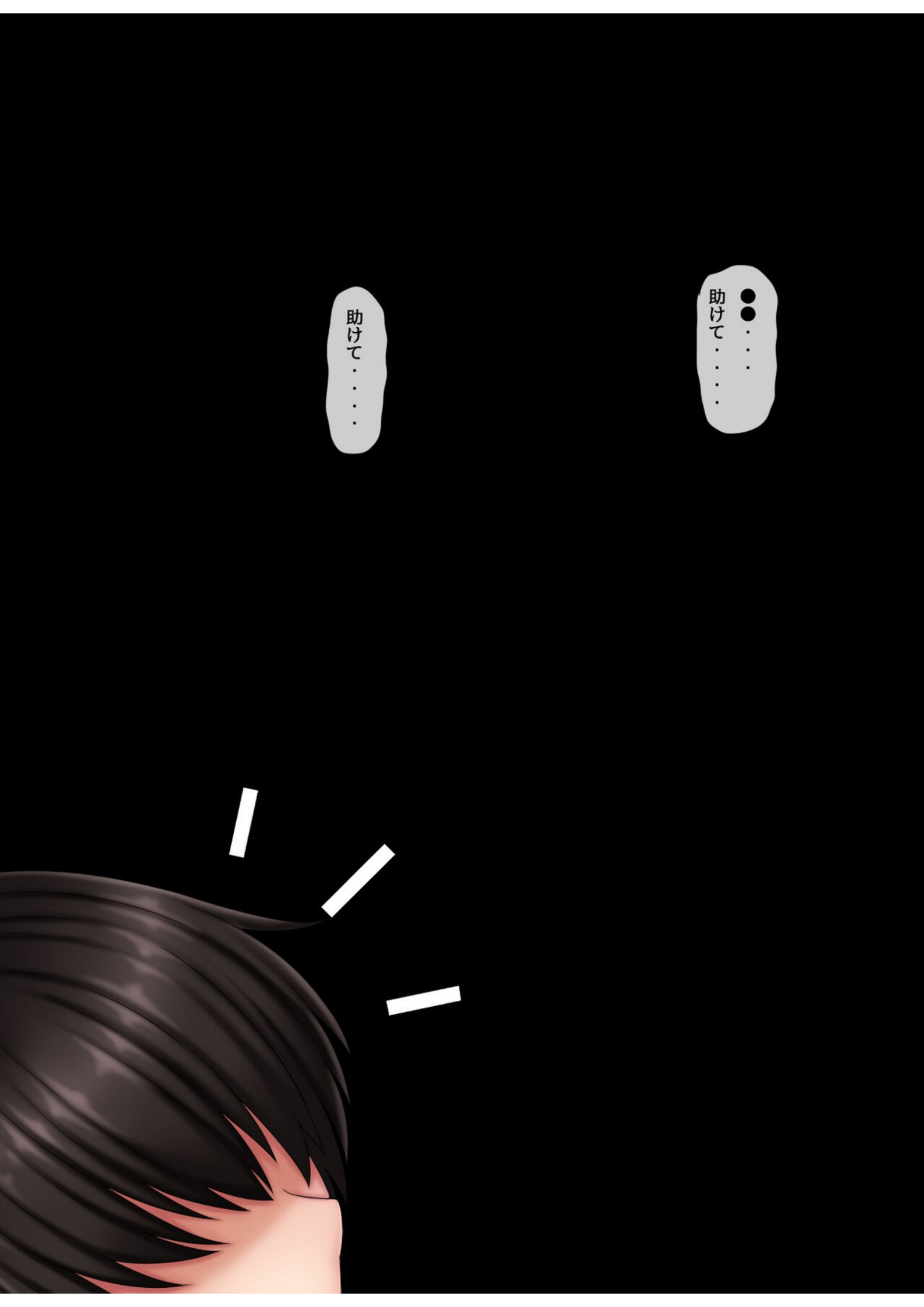
心臓と片方の肺・・・・・
宿主を生かすための必要最低限な臓器を残され・・・・
それ以外のすべては寄生虫によって作り変えられていた・・・
大腸・小腸などがあるはずの下腹部は
すべて卵を蓄えるための袋のような臓器となっていた・・・・
ドクン・・・
ドクン・・・
ドクン・・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・


脳は半分が寄生されている状態・・・・
ドクン・・・
ドクン・・・
・・・・
ドクン・・・
ドクン・・・
ドクン・・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・
トクン・・


しかし無事な方も……
もはや時間の問題だった……
ドクン…
ドクン…
ドクン…

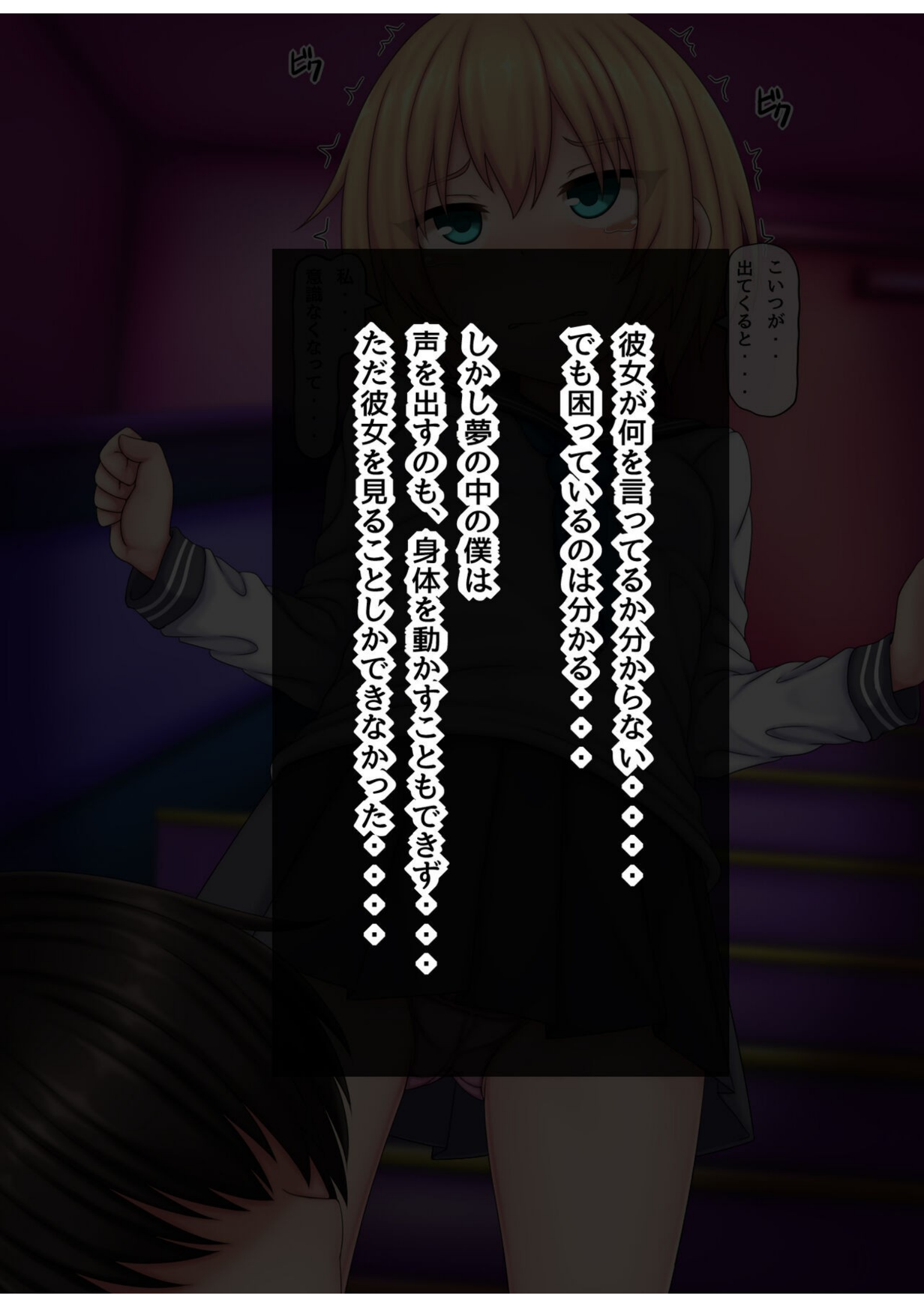
その夜……

僕は夢を見た……


●●・・・
助けて・・・・・
助けて・・・・・

助けて・・・
私の中に・・
何かいるの・・・
場所は学校のいつもの場所・・・・
彼女は涙目で僕に助けを求めていた・・・・・

ビク
ビク
こいつが・・
出てくると・・・
私・・・
意識なくなって・・・


ビク
ビク
こいつが・・
出てくると・・・
私・・・
意識なくなって・・・
彼女が何を言ってるか分からない・・・・
でも困っているのは分かる・・・
しかし夢の中の僕は
声を出すのも、身体を動かすこともできず・・・
ただ彼女を見ることしかできなかった・・・・

どんどん身体も・・
ズズ・・
ズズ・・
私のじゃない
みたいになって・・・

!?
あっ・・・
だめ・・・・・
ズズ…
ドクン…
出てくる・・・・
あいつが・・・・

ブスッ!!
いや・・・・
もうやめて・・・
あたしを・・
取らないで・・・

ビク
ビク
●●……助けて……
ゴロッ…

ピク
ピク…
ピク…
あっ…
あぁぁぁ…
この人間のメス…
若くて健康な身体だ
ズズ…

あはっ・・
宿主に選ばれたことを光栄に思え・・
大切に使ってやる・・感謝しろ・・
ありがとぉ・・ございます・・・

ただ呆然と彼女の様子を眺めていた僕は・・・
途端に視界がぼやけ・・・夢から覚めていく・・・・・・

そして朝になると、僕は夢の事は覚えていなかった・・・

ただ怖い夢を見たような気がするとしか・・・・・

そして朝・・・

●●ー！
いつまで寝てるの！
起きなさーい！

母の声ですくっと起き上がる・・・・
不気味な様子の彼女の顔にはまだ寄生痕がわずかに残っていた・・・・
ベッド中に産み付けられた卵は、いつの間にか跡形もなく消えていた・・・・
ドク・・・
ドク・・・
ガバッ

さっさと準備して
朝ごはん食べなさーい！
……
じーっ……
声のする方をじっと見る……

あーーーーーーー
あぇーーーーーー
あー…
あー…

いいいいーーーー
ぐにゃ…
ういいーーーーー

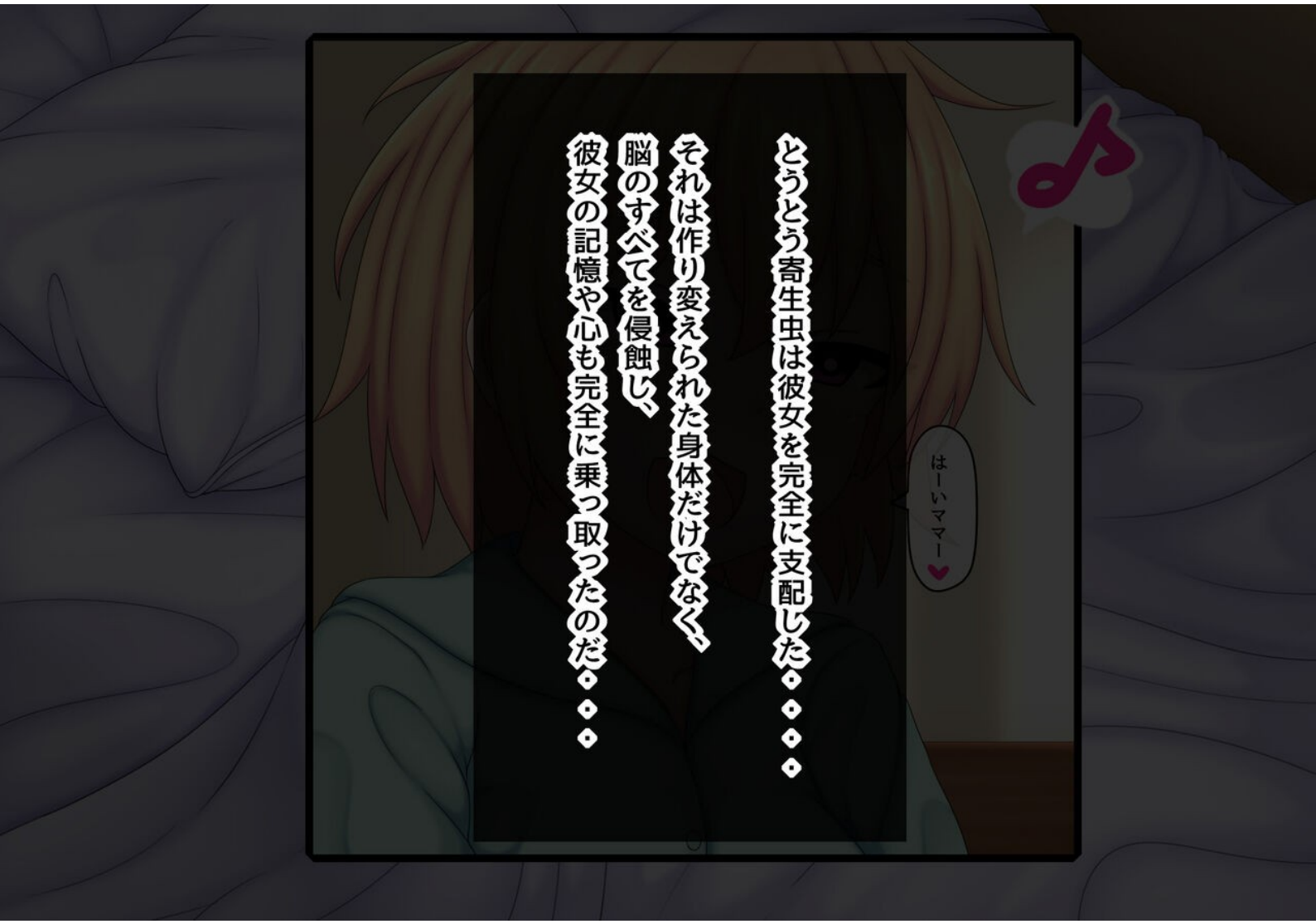
声を出しながら、口、眉、目と顔全体を確かめるように動かす・・・・・・
えへぇーーーー
あぇーー・・・
あぁーー・・・

ふふふふ・・・・
ふふ・・・

ふふ・・・
これで全部・・・
人間のメス・・・
記憶も身体も・・・
あたしのモノ・・・・

こらぁ！起きなさい！
遅刻するわよっ!!

はーいママー♥


とうとう寄生虫は彼女を完全に支配した・・・・
それは作り変えられた身体だけでなく、
脳のすべてを侵蝕し、
彼女の記憶や心も完全に乗っ取ったのだ・・・
はーいママー♥

そして昼……いつもの階段……

背後に立った彼女は、あの面積の少ないパンツを履いていた・・・・
○○君っ♥おはよー
おはようってお前・・それに君付けとか気色悪いわ・・・

？
若いオスには君付けが多いって
記憶があったんだけど・・
違った？ｗ
はぁ・・・
まだ記憶を全部
引っ張り出してないんだよねー
？
何言ってんだお前

男との会話に齟齬が生じ、彼女は人間だった頃の記憶を辿るため、自らの脳を弄(まさぐ)る・・・・・・
あっ・・あっ・・
あー・・なるほど・・
○○は・・呼び捨て・・・・
特別な存在・・・
恋愛感情の有無は・・・・
うん・・うんうん・・
どうした？
厨二病アニメにでも
影響受けたのか？
ピクッ
ビクッ
ピクッ
ビクッ
ぐちゅ・・
ぐちゅ・・
ぐちゅ・・

www
ねーねー○○・・
ちょっとこっち向いてよ
にやにや・・
じーっ・・・

男が振り向くと、彼女はスカートを持ち上げ大胆なパンツを見せつける・・・・・
じゃーんw
えっちなパンツーw
！
プルン♡

www
えー？
なんでもっと見ないの？w
あせ
あせっ
何してんだお前っ！
バカだろっ！
見れるわけないだろっ！

このパンツは、いつか誰かと交尾する時のために買ったんだってーw
フフ・・・
フフフ・・・
このメスって頭の中えっちな事でいっぱいなんだよw知ってたぁ？
お前・・っ！
誂うにも限度があるぞ！
それにそんなの学校に履いてきて・・・
もし他の男子に見つかったら・・・

www
ww
それって他のオスに取られたくないって事？
ニヤニヤw
ニヤニヤw
人間特有の嫉妬って感情だよね？w
そうやってすぐ茶化しやがって・・・

突然彼女はスカートを脱ぐ・・・・・
よいしょっと
こっちは・・その・・
ちょっとだけ心配
してたんだぞ・・・・
パサッ

プルプル
プルプル
んんーーっ・・
プクー・・・♥
最近お前の様子がおかしくて・・・・・

プルプル
プルプル
んんーーっ・・
男が彼女への正直な気持ちをゆっくりと語りだす・・・
しかし背後の彼女は・・・・・・・
プクー・・・♥
最近お前の様子がおかしくて・・・・・

プルプル
プルプル
んぎぃ・・っ♥
フー♥
フー♥
何か隠すように
すぐに帰っていったり・・
ズリュ・・ッ♥
ニュ・・♥

あはぁぁぁぁ・・・♥
べろんっ♥
元気なお前が・・
突然学校休んだりさ・・・
ヴリュリュッ♥

ww
フフ・・
いっぱい出しちゃったぁ♥
人間の体って排泄物出す穴で
快感得られるとか・・
作ったやつ頭おかしすぎぃw
お前はいつも茶化したり
誂ったりするけどさ・・
俺は・・けっこー・・
心配してるんだぞ・・・

あっ・・・
ズニュニュ
俺なんかが心配なんてしなくたってお前の事だから大丈夫だろうけどさ・・・

おっとっと・・
パンツ落ちちゃう・・
ズズ…♥
ズリュリュ♥
なんか悩みとかあったら
言ってくれても・・いいぞ・・
まぁ解決とかは無理だけど
聞くぐらいならさ・・

・・・んっ？
ズズ…♥
って聞いてんのか？
さっきからブツブツ
何か言ってるけど・・

www
ww
あはは・・ごめんごめんw
ようは○○は寂しかったんだねw
ビチン
ビチン
ズムッ
ズニュッ・・
ニュル
ニュル
ニュル
ニュル
はぁ？

ほら、よしよししてあげる♥
よし♥よし♥
フヒッ♥
フヒッ♥
ズリュ♥
ズリュリュ・・♥
ズリ♥
ズリ♥
なんでそうなるんだよ・・
って、頭撫でんな・・

www
ww
あはは～
あははw
照れてる照れてるw
サササッ
ブンブンッ
っていい加減にしろ！

すると彼女のお腹が鳴る・・・・・
/ぐぅ～・・・/
ニュル・・
ブブ・・・
なんだ？
まだ昼ごはん
食べてないのか？
ニュル

うん、まだこの身体だと
食事が上手くできないみたい
そっか、体調崩して
学校休んでたもんな・・

長く伸びた舌を唾液が伝い落ちる・・・・
明日にはもっと便利な身体になると思うけど・・・・
もうお腹空いてぺこぺこだよー・・
はー・・
べろーん・・♥
はー・・
どう～・・・・
?
便利？
まぁ病み上がりだし無理すんなよ？

だからまた明日♥
お腹空かせて会いに来るね♥
はっ♥
はっ♥
ズリュ…
いや、ご飯は食べてから来いよ

意味深な言葉を残し、消えるように彼女は居なくなった・・・・
噛み合っているようで噛み合っていない会話・・・・・
彼女の本当の姿を見ることのなかった男は、この違和感に気付かなかった・・・・
あれ・・・？
いつの間に帰った？
まぁ・・元気そうだし
いいか・・・・

ん・・・？
なんか頭がぬるぬるしてる・・
なんでだ・・・・
？
ベちゃっ・・

なぜ濡れているのか・・・・・
男の頭に乗せられていたのは、彼女の手ではないと
髪の毛越しの感触では気付かなかった・・・・・
そして男は昼ごはんを終え、教室へと戻って行った・・・・・・・

プルプル
プルプル
あっ…
トクン…
トクン…
トクン…
トクン…
トクン…
トクン…
トクン…
ニュル…
ニュル…